

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 2月 7日

事業所名 みらいのいぶき

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		児童1人に対して3.3㎡が基準のところ、7㎡以上は確保出ています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		行政より指定されている配置数は遵守し、お客様の利用状況に応じて、都度適正な配置をオペレーションするように心掛けております。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		当事業所が病院内にあることから、施設内はバリアフリー化されています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		業務改善を目的として、月に1度スタッフミーティングを開催しております。このスタッフミーティングを通して、振り返り等を行い全ての業務の改善を図っております。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		まだまだ改善の余地があると思われまますので、ご意見を頂戴いたします。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	経営役員の評価は随時受けており、外部への第三者評価依頼は行っておりません。	必要に応じて、外部への委託も検討致します。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		グループ全体で「症例報告会」を月に2回、「医療安全研修」を月に1回、「支援勉強会」を月に4回実施しています。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントの為の情報を全職員で収集し、事業所における方針を個別支援会議にて決定。計画書を作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		リハビリ専門職の評価、療育担当職の評価時に用い、現場に沿うよう開発も同時に進めています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		多職種で構成されており、プログラム決定までのプロセスに全職員が参加しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		月間、季節などで変化を持たせています。	外出活動が少ない為、今後の課題と致します。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○	土日祝、長期休暇時には時間に余裕がありますが、平日は時間の短さから「きめ細やかさ」には欠けると思われます。	平日の活動時間を少しでも多く作れるように送迎時間の見直しや療育案の目的・活動内容を細かく具体的に考えていきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団活動、個別活動において得意・不得意様々なお子様がいらっしゃいます。目的を明確化し、その中で集団、個別に合う方法で支援しております。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○	注意点や保護者様か得たお子様の情報や要望に対して情報の共有や支援内容の確認までは行っていますが、役割担当までは設定出来ておりません。	今後は、役割分担等も含め朝礼にて周知していきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		以前は行っていましたが、就労問題等に厳しくなった昨今、就労時間等の問題から、支援終了後にスタッフ全員で打合せや振り返りを行うことが難しくなりました。ですが、社内ネットワークを通してスタッフ間で情報の共有を行っております。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		社内のネットワークシステムにて記録。同時に情報の共有を行っております。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		状況に応じて、また担当者会議のタイミング等で見直しております。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている		○		基本活動の中の創作活動は、特にリハビリテーションの観点から様々な仕掛けを施しております。しかし、地域交流の機会の提供においては高齢者施設との交流がありますが、子ども達同士の交流が積極的に行えておりません。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		様々なお子様の抱えている課題に応じ、保育士、教員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等、精通した専門職種の職員の参画を致しております。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校との情報共有は適宜行っており、個別対応が必要なお子様には保護者様からも助言頂いている現状です。しかし、送迎トラブル発生時の連絡調整時には学校側のルールに合わせる為、解決までに時間が掛かってしまう場合があります。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医療的ケアのお子様が多数在籍されている為、訪問看護ステーションと共同し、万が一の為の救急搬送までの連絡体制の構築を図っています。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		相談支援専門員の方が持ってこられる情報に頼っている為、今後の課題とします。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	要望があった場合は、情報を提供していました。	相談支援専門員の方にだけ情報を提供し、あとは相談支援員の方に卒後のサービス事業所への情報の提示を委ねてしまっている状況にあります。従いまして、今後は積極的に情報を提供できるように努めて参ります。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		行政主催の発達支援研修へ参加をしております。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		放課後児童クラブ等の団体での活動機会は現在 設定しておりません。今後の課題といたします。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に対面での保護者様とのコミュニケーションを大事にさせて頂いております。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		スタッフにおけるペアレントトレーニングに関する 知識・技術力が不足していると感じています。今後、研修等積極的に参加し、向上させて参ります。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		分かりにくい点がございましたら、お知らせ下さい。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○		スタッフにおける助言に対する知識・技術力が不足していると感じています。今後、研修等積極的に参加し、向上させて参ります。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		ほとんどの保護者様が学校の役員、共働きなどで時間に制約を受けていると声を多数いただきます。必要に応じて考慮致します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情担当窓口、苦情解決責任者など組織体制を構築し、ご案内しております。お叱り等があった場合は、迅速に対応努力をしておりますが、改善点などございましたら、お知らせください	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	35	個人情報に十分注意している	○		社内でも漏洩しないよう取り扱い方の講習を行い、また入社時には「個人情報保護誓約書」を締結しております。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		手話、文字ボード、筆談など、お子様によってアレンジされたものもあります。保護者様、学校の先生と共有し共通の方法で接しています。また、コミュニケーションエイドをご利用のお子様に関しては操作方法等を保護者様からご伝達いただいております。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域で催される行事ごとには参加していますが、こちらが開催して招待するまでは至っておりません。今後の課題とします。
38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	緊急時マニュアルの策定と訓練は頻回に実施、防犯マニュアル、感染症マニュアルの策定は職員自身で情報の最新更新作業を行っております。	しかし、保護者様への周知までではできておりませんので今後の課題と致します。	
39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎年、春・秋の年に2回実施しております。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		社内研修を行い参加を義務付けています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		やむを得ない一時的な身体拘束の可能性のあるお子様に関しては定期的なミーティングにて都度確認。計画書の中へ盛り込み、保護者様への説明を行っています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	食事やおやつの提供は行っておりません。従いまして、医師の指示書発行時にも食物アレルギーの項目は任意でお願いしています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		社内ネットワークシステムにて、情報の確実な共有管理を行っています。	